



2025 年 10 月 21 日

各 位

会社名 株式会社イルグルム
代表者名 代表取締役 社長執行役員 CEO 岩田 進
(コード番号：3690) 東証スタンダード
問合せ先 執行役員 CAO 栢木 秀樹
(TEL 06-4795-7500)

通期連結業績予想の修正及び特別損失の計上見込に関するお知らせ

当社は、2025 年 1 月 17 日に公表しました 2025 年 9 月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたします。また、2025 年 9 月期連結会計期間において、特別損失を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 2025 年 9 月期通期連結業績予想の修正 (2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 4,800	百万円 200	百万円 190	百万円 100	円 銭 16.18
今回修正予想 (B)	4,930	270	270	△140	△22.98
増減額 (B-A)	130	70	80	△240	△39.16
増減率 (%)	2.7	35.0	42.1	-	-
(ご参考) 前期実績 2024 年 9 月期	3,636	164	162	68	11.14

(2) 通期連結業績予想修正の理由

2025 年 9 月期連結会計期間の売上高は主にコマース支援事業の M&A により子会社となったルビー・グループ株式会社 (以下、「ルビー・グループ」といいます。) において、当初想定を上回ったことにより、130 百万円の上方修正となる見込です。

利益面につきましては、売上高が増加したこと、またそれに伴う売上原価の増加が発生したものの、業務効率化により販売管理費が抑制されたことにより、営業利益については 70 百万円、経常利益については 80 百万円、それぞれ前回発表の業績予想を上回ることを見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、ルビー・グループ及び株式会社トピカ (以下、「トピカ」といいます。) に係るのれん等の減損による特別損失を計上することから、前回発表の業績予想を下回る見込みです。

以上の理由により、2025 年 9 月期通期連結業績予想を修正いたします。

(3) 配当予想について

期末配当予想につきましては、1 株あたり 7.9 円を予定しており、前回発表予想から変更はございません。業績の修正予想を踏まえ、配当方針の目安としている連結株主資本配当率(DOE) 2.5%を用いて算出し直すと、1 株当たり配当金は前回発表予想の 7.9 円を下回るものの、株主の皆様への安定的かつ継続的な配当政策は重要な経営方針の 1 つであるため、総合的な判断から修正は行わず配当予想を据え置く方針です。

2. 特別損失の計上について

当社は、コマース支援事業における事業領域の拡大を目的として、2024 年 9 月にルビー・グループの株式を取得し、連結子会社化しています。2025 年 9 月期連結会計期間において、ルビー・グループの EC オペレーションマネジメント事業に関して、主要顧客の一部に解約可能性が生じたことで将来のキャッシュフローの獲得に不確実性が増したことに伴い、従来の事業計画を保守的な計画に見直した結果、ルビー・グループに係るのれん及び固定資産について合計 238 百万円を減損損失として計上する見込みとなりました。

また、マーケティング DX 支援事業における事業領域の拡大を目的として、2019 年 7 月にトピカの株式を得し、連結子会社化していますが、トピカの SNS 運用代行事業における直近の業績に鑑み、将来の事業計画を見直した結果、2025 年 9 月期連結会計期間において、トピカに係るのれん 98 百万円を減損損失として計上する見込みとなりました。

なお、本日『【補足資料】2025 年 9 月期通期連結業績予想の修正・特別損失の発生見込について』をあわせて公表しておりますので、詳細につきましてはそちらをご覧ください。今後のスケジュールといたしましては、11 月 6 日に 2025 年 9 月期本決算を公表する予定となっており、同日にオンライン決算説明会を開催する予定でございます。

（注）連結業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上

【補足資料】
2025年9月期 通期連結業績予想の修正
・ 特別損失の計上見込について

2025.10.21



株式会社イルグルム

東証スタンダード：3690

1

通期業績予想の修正

売上高・営業利益・経常利益を上方修正も当期純損益を下方修正

安定的な株主還元実施の方針に基づき期末配当金は据え置き

単位：百万円	2024年9月期	2025年9月期 通期業績予想					
	通期実績【A】	(3Q累計実績)	従前予想【B】	修正予想【C】	修正額【C-B】	修正率【C/B】	前期比【C/A】
売上高	3,636	(3,636)	4,800	4,930	+130	+2.7%	+35.6%
営業利益	164	(161)	200	270	+70	+35.0%	+64.2%
経常利益	162	(165)	190	270	+80	+42.1%	+66.5%
親会社株主に帰属する当期純損益	68	(107)	100	△140	△240	—	—

3Q累計実績が通期予想値を超過も
8月の3Q決算発表時点では据え置き

事業状況としては4Qも好調に推移も、M&Aによって取得した連結子会社2社の減損損失の計上による特別損失△3.37億円が発生する見込み(P.8以降参照)となり、△1.4億円の赤字予想に下方修正

単位：円	2024年9月期	2025年9月期 配当予想				
	配当実績【A】	従前予想【B】	修正予想【C】	修正額【C-B】	修正率【C/B】	前期比【C/A】
期末配当金	7.8	7.9	7.9	—	—	+0.1

① 好調な事業状況を受けて上方修正となった3項目

売上高

3Qで更新の四半期過去最高を
4Qで再更新の見込み

営業利益

コマース支援事業の3Qでの黒字転換を受けて
4Qは3Q以上の大幅な伸びを見込む

経常利益

【全グラフ共通】

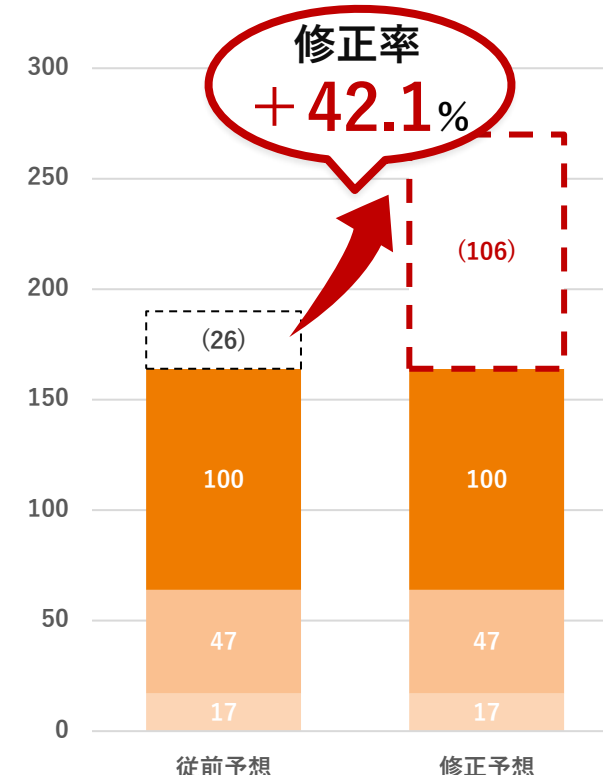
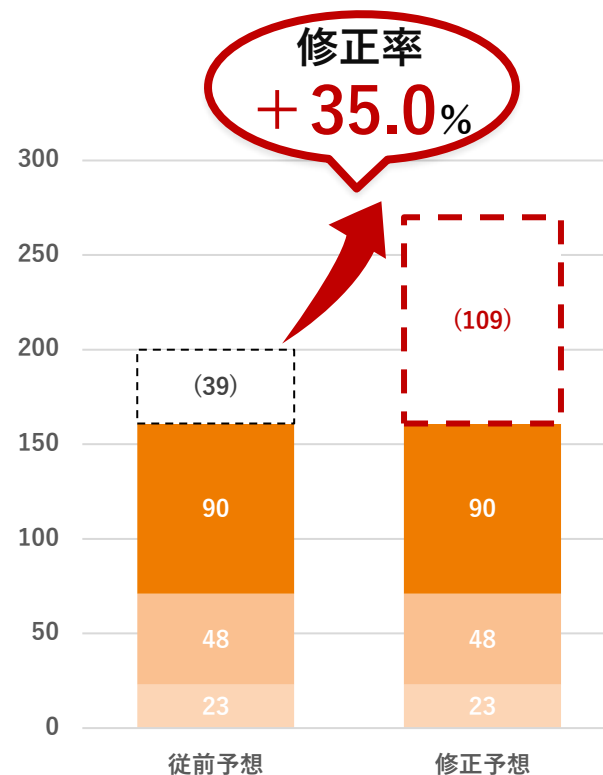
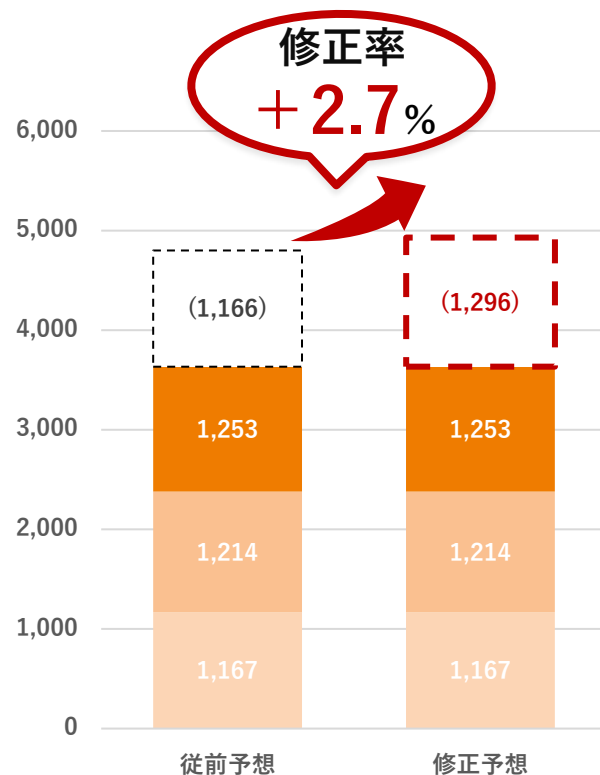
単位：百万円

□ (4Q予想)

■ 3Q実績

■ 2Q実績

■ 1Q実績



主な
修正理由

売上比率の大きい「アドエビス」は概ね計画通りに推移。一方、コマース領域のM&A子会社であるルビー・グループが当初想定を上回る推移に

3Qで大幅な伸びとなり、従前の通期予想に対して好進捗となっていた。売上高が増加したこと、それに伴い売上原価が増加も、業務効率化により販売管理費が抑制され、従前予想を大きく上回る見通しに

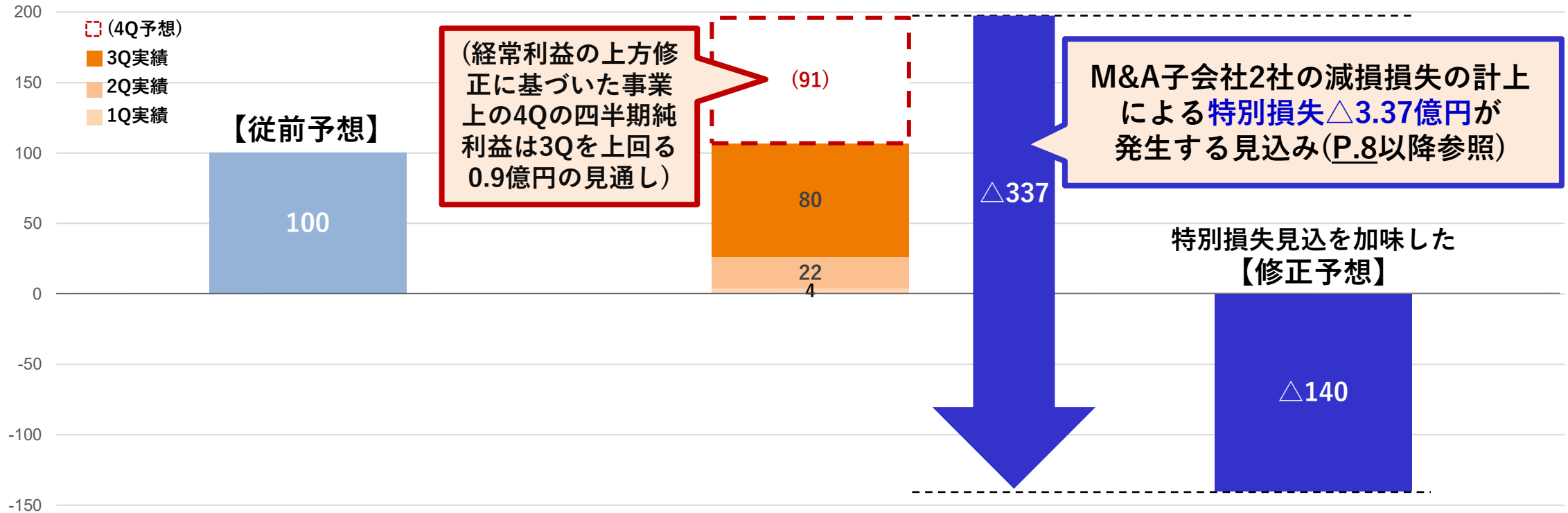
① 好調な事業状況も特殊要因の発生により下方修正となった項目

親会社に帰属する純損益

売上高・営業利益・経常利益の上方修正に基づく
当期純損益の事業上の通期見通しは従前予想を大きく上回るものの、
M&A子会社2社の減損損失の計上による特別損失見込を加味した修正予想は
△1.4億円の赤字予想となる

単位：百万円

【事業上の通期見通し】

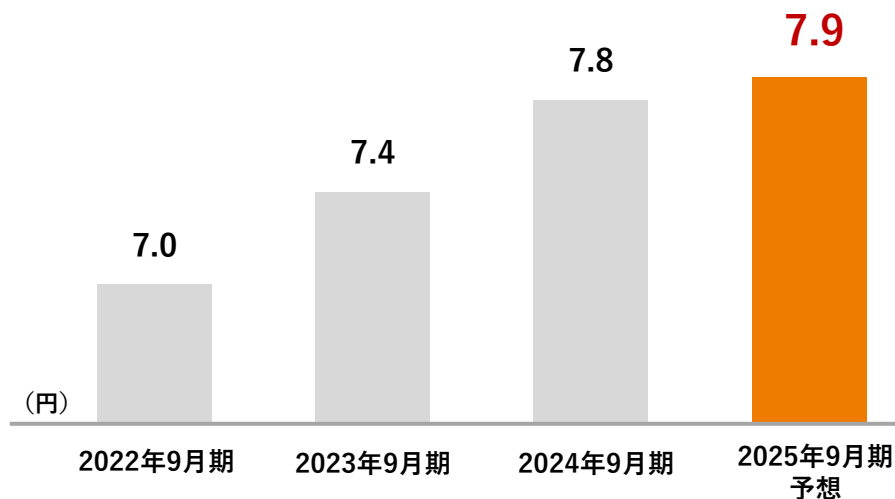


➔ 株主還元予想は、期末配当金・株主優待内容をいずれも据え置く

配当

安定的かつ継続的な利益配分を行うことを基本方針として連結株主資本配当率(DOE) 2.5%を目安に期末配当を実施

【1株当たりの配当金】



業績の修正予想を踏まえ連結株主資本配当率(DOE) 2.5%を用いて算出し直すと1株当たり配当金は従前予想の7.9円を下回るものの、**株主の皆様への安定的かつ継続的な配当政策は重要な経営方針の1つであるため、総合的な判断から修正は行わず配当予想を据え置く**

株主優待

株主の皆様の利便性向上を目的に品目の変更を2025年8月に公表

変更前

保有株式数	内容
100株以上 (1単元以上)	Amazonギフト券 1,000円分 (年2回※1、合計2,000円)

変更後

保有株式数	内容
100株以上 (1単元以上)	デジタルギフト®※2 1,000円分 (年2回※1、合計2,000円)

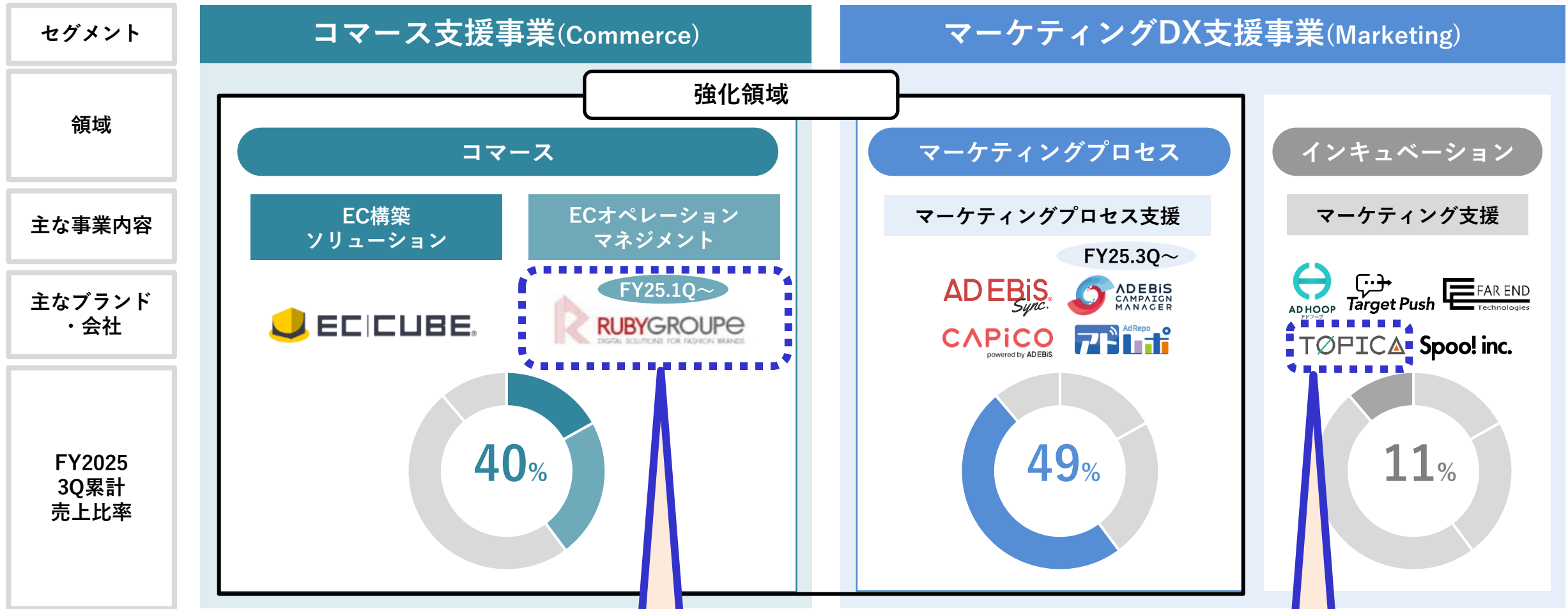
※1 基準日は3月末日、9月末日

※2 株式会社デジタルプラス（コード番号：3691）が提供するデジタルギフト®は、欲しいギフトを自由に選択できるサービス。
Amazon ギフトカード / PayPayマネーライト / QUOカードPay / dポイント / au PAYギフトカード / Visa eギフト vanilla / 図書カードNEXT / Uber Taxiギフトカード / Uber Eatsギフトカード / Google Play ギフトコード / PlayStation®Store チケット等から選択可能。
(2025年8月時点。交換先は今後変更の可能性あります)

2

特別損失の計上見込

M&A子会社2社の減損損失として合計△3.37億円の特別損失計上を見込む



1 ルビー・グループに係わるのれん及び固定資産について
 合計**238百万円**を減損損失として特別損失の計上見込み
 (P.9参照)

2 トピカに係るのれん**98百万円**を減損損失
 として特別損失の計上見込み
 (P.10参照)

特別損失の計上見込 ①



会社名	ルビー・グループ株式会社
事業内容	ECオペレーションマネジメント事業 (ラグジュアリーブランドのECサイトの運用代行等)
取得目的	コマース支援事業における垂直統合モデル実現のための領域拡大
取得時期・取得金額・取得時のれん金額	2024年9月・482百万円・185百万円
特別損失予定金額合計	238百万円 の見込み(内訳はP.11参照)

- ✓ FY2025.1Qより連結を開始したM&A子会社ルビー・グループの売上は当初想定を上回る推移となり、通期連結業績予想において売上高の上方修正の主な要因となりました
- ✓ 一方で、主要顧客の一部に解約可能性が生じたことで将来のキャッシュフロー獲得において不確実性が増したことにより、保守的な将来計画に見直したため、減損損失として特別損失を計上する見込みとなりました
- ✓ 強化領域に属する事業であり、Eコマース市場は引き続き高い成長性が期待されるため、今後も戦略的なリソース投入を継続し、新規顧客獲得についても強化してまいります

特別損失の計上見込 ②



会社名	株式会社トピカ
事業内容	SNSマーケティング支援 インフルエンサーマーケティング支援 動画制作など
取得目的	ソーシャルメディアマーケティング市場への事業領域拡大
取得時期・取得金額・取得時のれん金額	2021年7月・220百万円・206百万円
特別損失予定金額合計	98百万円の見込み

- ✔ InstagramやTikTokをはじめとするSNSマーケティング市場の成長性は高いものと捉えておりますが、トピカの直近の業績状況を鑑み、将来の収益計画を見直したため、減損損失として特別損失を計上する見込みとなりました
- ✔ 引き続きSNSマーケティングは有望な市場であり、インキュベーション領域に属する事業として成長を図ってまいります

特別損失の計上見込による影響

一時的なネガティブ要素

FY2025通期連結業績予想
における
親会社に帰属する純損益
の赤字転落



【BS※1インパクト】

グループののれん残高が
FY2024期末：430百万円
→FY2025期末：57百万円
に減少

ポジティブ要素

【PL※2インパクト】

FY2026以降、
ルビー・グループおよび
トピカに係る減損部分の
償却費※3負担が消滅

該当子会社	特別損失見込内訳と金額	のれん残高	償却費負担
	のれんを全額減損損失：162百万円	—	FY25：23百万円 ➡ FY26：—
	その他※4減損損失：76百万円	—	FY25：31百万円 ➡ FY26：— ※5
	のれんを全額減損損失：98百万円	—	FY25：15百万円 ➡ FY26：—
合計	337百万円	—	FY25：69百万円 ➡ FY26：—

※1 BS：「Balance Sheet」の略で、財務(資産・負債・純資産)の状況を示す貸借対照表のこと
※2 PL：「Profit and Loss Statement」の略で、経営成績・業績状況を示す損益計算書のこと
※3 償却費：M&Aで発生したのれん金額を一定期間にわたって会計上の費用として分割計上する費用で、営業利益の減少要因となる
※4 その他：有形固定資産・無形固定資産の合計
※5 減損対象の固定資産に係る減価償却費は発生しませんが、新規に固定資産を取得した場合は減価償却費が発生する場合があります

**2025年9月期の通期業績予想は売上高・営業利益・経常利益を
上方修正しました通り、事業状況は良好です。**

**この特別損失は一時的なものであるため、
当社グループの中長期的な成長戦略に変更はございません。**

**成長戦略につきましては動画(約8分)を公開しておりますので、
是非そちらもご覧ください。**

株式会社イルグルム 成長戦略 – YouTube

**なお、本決算の発表は11月6日(木)15:30を予定しており、
16時～オンライン決算説明会を開催いたします。**

**質疑応答の時間も設けておりますので、
ご参加を希望される方は下記のリンクよりご登録をお願い致します。**

ウェビナー登録 – Zoom



本資料の取り扱いについて

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。